

取組の方向性 市内産業の進化・発展

取組の柱 （１）事業のしやすい環境づくり

市内産業の経営支援

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
新規	B C P策定のための支援	○ B C P 策定支援事業（全３回）を開催 第1回 10/10 BCP策定セミナー/ワークショップ 第1部リアル参加3人(2社(市内2社))、 ウェブ参加4人(3社(市内3社)・1団体) 第2部2人(1社(市内1社)) 第2回 11/13、11/22 BCP策定個別相談会4人(2社(市内2社)) 第3回 12/11 BCP机上訓練（体験会）5人(3社(市内3社))	○ B C P 策定支援事業（全３回）を開催予定 【資料01～02】 第1回 9/20 風水害24体験会 7社（市内3社）8人参加 第2回 10/18 BCP策定ワークショップ 1社（市内1社）2人参加 第3回 11/14、11/18 BCP策定個別相談会 2社（市内2社）5人参加	R5については、第2回や第3回に参加した2社がBCP新規策定、4社が再策定することができた。 R6については、第1回から参加した1社が再策定、第3回に参加した1社が新規策定中	参加事業者の内訳として、R4～5は、BCP策定が義務化された介護事業者等の福祉業種に偏りがあった。市内の主要業種である製造業等に向けて、R6からはBCP策定を促す講座等の魅せ方や発信方法を変更し、新規の掘り起こしを図ったが成果に繋がっていない。	自然災害が多発している中でも、BCPの策定については、重要度は高いが優先度が低いため、既存事業と連携を深めるなど工夫する必要がある。 企業訪問や様々な媒体を用いて告知するなど、より多くの業種・事業者が参加するように事業周知に力をいれていく。 BCP策定のノウハウがない事業者も有効なBCPを策定できるよう引き続き継続していく。
	市と連携協定を締結している企業や金融機関、宇治商工会議所と連携して、事業者のBCP策定を促すための実践的なセミナー・ワークショップを実施					
拡充	各種制度の周知	○ 制度パンフレットを企業訪問にて配付 ○ 宇治NEXTのホームページ、メールマガジン、フェイスブック、インスタグラム等を活用し、施策情報をタイムリーに情報発信 ・フェイスブック投稿実績 29回 ・Instagram投稿実績 34回 ・メルマガ実績 254人登録、36回配信 ○ 市政だよりを活用し施策情報を発信（うじの生活おうえんクーポン事業、就労相談等を掲載）	○ 制度パンフレットを企業訪問にて配付【資料03】 ○ 宇治NEXTのホームページ、メールマガジン、フェイスブック、インスタグラム等を活用し、施策情報をタイムリーに情報発信 ・フェイスブック投稿実績 34回（10/30現在） ・Instagram投稿実績 42回（11/27現在） ・メルマガ実績 285人登録、9回配信（10/24現在） ○ 市政だよりを活用し施策情報を情報発信（こども未来キャンパス事業、就労相談等を掲載）	企業訪問によるヒアリングや、ホームページ、メールマガジン等の様々な媒体を用いて制度周知に努めることができた。	各種情報発信手段の広報効果の確認が難しい。	各種媒体による積極的な施策等の周知に努めるとともに、企業訪問や面談時に、事業者の置かれている状況やニーズを的確に把握し、産業支援機関等と連携しながら、事業者の課題解決や経営の安定・成長発展に向けて、伴走支援していく。
	市内事業者向けに市や商工会議所等の各種制度を周知するため、SNSでの発信や企業訪問等でパンフレットを配付					
拡充	農業者への情報発信	○ メールマガジンの配信 6回 ○ ホームページでの情報掲載 個々の補助事業の掲載	○ メールマガジンの配信 6回（うち、見込1回） ○ ホームページでの情報掲載 補助事業のしおり掲載、個々の補助事業の掲載	メールマガジン配信希望者に効果的に情報を提供できた。 R5に農業関連補助事業をまとめたしおりを作成し、R6には、年度はじめにホームページへ掲載することで、広く補助事業を知ってもらう機会を作れた。	メールマガジン配信希望者の整理が必要。 ホームページにしおりが掲載してあることを農業者に広く周知広報する必要がある。	配信希望者からの声を聞き取り、より有益なメールマガジンとなるよう内容を検討し、実施していく。 ホームページにしおりが掲載してあることが農業者に浸透・定着するように取り組んでいく。
	行政の支援事業や民間団体等の農業関連イベント等の情報を一元化し、しおりやSNS・メールマガジン等を通じてわかりやすく提供					
拡充	農業振興にかかる各種公的助成金、補助金の申請支援	○ 補助事業説明会の実施 7/19 12人 ○ 個別による事業内容説明 8月中旬～9月上旬 16人	○ 補助事業説明会の実施 4/17 13人 ○ 宇治市農業振興協議会で事業内容説明 8/21	年度当初にJAと連携し、説明会を実施し、農業振興協議会を前半に開催することで、農業者への制度の浸透がより図れた。	説明会の実施時期を年度はじめにした上で、より多くの農業者に参加してもらう必要がある。	JAとの連携を深め、説明会の案内を工夫する等、より多くの農業者に参加してもらえるよう、引き続き取り組んでいく。
	農業振興にかかる国や京都府、市の補助金、税の減免等に関する情報提供や申請の支援					
拡充	企業立地助成金の活用支援	○ R5年度指定2社 うち、R4年度に拡充した要件 での指定2社 取得又は賃借をした建物の延床面積が300㎡以上のもについても、新たに助成対象指定要件に追加し、助成金を交付することとした。 ○ 助成金交付7社11件	○ R6年度指定4社（うち、見込1社） うち、R4年度に拡充した要件 での指定2社 取得又は賃借をした建物の延床面積が300㎡以上のもについても、新たに助成対象指定要件に追加し、助成金を交付することとした。 ○ 助成金交付7社10件（見込）	R4年度に制度拡充を行ったことにより、これまで本制度にて支援ができなかった敷地内増設についても支援が可能となり、市内既存企業の市内定着や事業規模拡大の支援を実施することができた。 助成金申請時に申請手続きの支援を行うことで円滑に助成金を交付することができた。	市内において新規立地できる用地が少ない。	引き続き、宇治市企業立地促進条例の制度を活用し、市外から市内への移転や既存企業の規模拡大を支援していく。
	市内で工場の新設や規模の拡張をする企業を支援するため、条例に基づき市の助成金を交付 面積要件を満たさない場合も一定要件を満たす場合は同条例の助成対象に拡大					

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
継続	産業支援拠点「宇治NEXT」の運営	- 市産業振興課、宇治商工会議所、市委託の企業支援機関による企業支援活動を実施 371件（訪問169件、来所81件、他121件） - 定例ミーティングの実施（市産業振興課、宇治商工会議所、市委託の企業支援機関）	- 市産業振興課、宇治商工会議所、市委託の企業支援機関による企業支援活動を実施 265件（訪問134件、来所59件、他72件）（11/22現在） - 定例ミーティングの実施（市産業振興課、宇治商工会議所、市委託の企業支援機関）	補助金や助成金の支援だけでなく、人材確保・育成や異業種交流による事業者間の交流促進など、事業者に寄り添った支援を実施した。	物価高騰や人手不足等が続いていることから、引き続き関係機関との情報共有や連携強化が求められる。	引き続き、宇治市、宇治商工会議所が一体となって産業支援拠点宇治NEXTの役割を果たしていく。
	専門機関と連携した支援	- 企業支援コーディネーター（週4日駐在）が、主に製造業の事業者に対して、国・府の補助金申請や企業間マッチング等の支援を実施 - B C Pセミナーの開催【P.01 B C P策定への支援に記載】 - 宇治市内企業後継者育成セミナーの開催【P.08 経営者やアトツギのコミュニティ形成の支援に記載】	- 企業支援コーディネーター（週4日駐在）が、主に製造業の事業者に対して、国・府の補助金申請や企業間マッチング等の支援を実施 - B C Pセミナーの開催【P.01 B C P策定への支援に記載】 - 宇治市内企業後継者育成セミナーの開催【P.08 経営者やアトツギのコミュニティ形成の支援に記載】	コーディネーターによる補助金申請支援や企業間のマッチング等、事業者のニーズに応じた支援を実施した。	訪問する企業数や回数を増やし、事業者の支援を充実させる必要がある。	企業訪問等を通じ、事業者の置かれている状況やニーズを的確に把握し、産業支援機関等と連携しながら、事業者の課題解決や経営の安定・成長発展に向けて、伴走支援を継続する。
継続	各種公的助成金、補助金の申請支援	○サイバーリスク対策セミナーの開催 9/20 9社				
	工場の新設や設備投資に対する国や京都府、市の補助金、税の減免等に関する情報提供や申請の支援					

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
継続	商店街等の消費拡大に向けた取組	○スマートフォンで利用可能なプレミアム付きデジタルクーポン事業を実施（うじの生活おうえんクーポン事業） ・プレミアム率 共通券30%、個店券40% ・店舗募集 8/23～12/28 ・販売冊数 共通券7万セット、個店券5万セット ・1セット5,000円 共通券1セット 6500円分 個店券1セット 7000円分 ・クーポン使用期間 1期2期ともに2/29まで 第1期分 ・クーポン販売期間 10/2～11/29 ・販売対象者 宇治市民(市内在住の人) ・購入可能冊数 1人各1セット 第2期分 ・クーポン販売期間 12/8～2/29 ・対象者 宇治市民(市内在住の人)、市内在学・在勤者 ・購入可能冊数 1人各2セット	○宇治市おでかけ商品券（納税）事業の加盟案内加盟店舗数14（11/29現在） ・専用サイトから納税 ・税金控除を受けられつつ返礼品の「デジタル商品券」がすぐに届く ・デジタル商品券は加盟店で利用可能	これまでの新型コロナウイルス感染症の影響に加え、原油高や物価高騰などにより厳しい経営状況が長引く市内事業者の売上回復・向上及び生活者支援を円滑に実施することができた。 店舗数が増え、認知も広がっている。 キャッシュレス化・ペーパーレス化により、スピード感を持って支援することができた。	購入希望者から紙のクーポンを希望する声があった一方、参加事業者からは換金手間や商品券紛失等による損失を鑑み、次回開催する場合もデジタルを希望する声が上がっており、予算、実施可能期間、人員確保等を考慮し、実施方法を検討する必要がある。	交付金を財源として市内経済の活性化に大きく貢献できる事業として有用である。 おでかけ商品券事業について、対象は観光客となるもののデジタルクーポンと同様の仕組みであり、事業者は導入しやすい事業であるため、加盟店舗数の増加に向けて、引き続き周知していく。
	商店街等への補助	○炭山陶器まつり実行委員会 炭山陶器まつり(情報化対策)500,000円 ○平等院表参道商店会 藤の花(活性化対策)216,000円 ○宇治観光土産品組合 「GET SMILE宇治だヨ！おみやげ集合ギフト～お土産 密にしました」第七弾 御中元バージョン(情報化対策) 500,000円 ○宇治橋通商店街振興組合 宇治橋通り商店街 笑顔がいっぱい わんさかフェスタ(活性化対策) 1,000,000円 ○宇治商工会議所 「ご当地キャラを活用したWEB漫画」および「海外インフルエンサーを活用した観光PR」による宇治の情報発信事業(情報化対策) 474,000円 ○宇治橋通商店街振興組合 宇治橋通り商店街 夏の感謝祭スマイルサタデー クラフトビール夜市（販売促進） 2,000,000円 ○協同組合平和堂同友店会アル・プラザ宇治東支部 アル・プラザ宇治東専門店街 生活全力応援セール プレミアム付お買物券 令和5年 第1弾 第2弾（販売促進） 729,000円 ○タウン100番街商店会 タウン100番街プレミアムチケット（販売促進） 208,000円 ○宇治観光土産品組合 「GET SMILE宇治だヨ！おみやげ集合ギフト～お土産 密にしました」第八弾 御歳暮バージョン（販売促進） 2,000,000円 ○宇治商工会議所 宇治市観光大使を活用した宇治観光動画発信および誘客キャンペーン（販売促進） 2,000,000円 ○協同組合平和堂同友店会アル・プラザ宇治東支部 アル・プラザ宇治東専門店街 生活全力応援セール プレミアム付お買物券 令和5年 第3弾（販売促進） 1,078,000円	○炭山陶器まつり実行委員会 炭山陶器まつり(情報化対策)500,000円 ○平等院表参道商店会 藤の花(活性化対策)265,000円 ○宇治観光土産品組合 「GET SMILE宇治だヨ！おみやげ集合ギフト～お土産 密にしました」第九弾 御中元バージョン(情報化対策) 500,000円 ○宇治橋通商店街振興組合 宇治橋通り商店街 笑顔がいっぱい わんさかフェスタ(活性化対策) 1,000,000円 ○宇治商工会議所 「ご当地キャラを活用したWEB漫画」および「海外インフルエンサーを活用した観光PR」による宇治の情報発信事業(情報化対策) 314,000円(見込) ○宇治橋通商店街振興組合 宇治橋通り商店街 夏の感謝祭スマイルサタデー クラフトビール夜市（活性化対策） 1,000,000円 ○宇治観光土産品組合 「GET SMILE宇治だヨ！おみやげ集合ギフト～お土産 密にしました」第十弾 御歳暮バージョン（情報化対策） 250,000円	商店街等が行う活性化対策事業等に補助することにより、商店街等の振興に寄与することができた。	補助金の書類作成などに不慣れであったり、自身の商売と並行しながらであることから、商店街の負担は一定大きい。報告書や領収書の整理等は宇治NEXTによるサポートが必要である。 府補助金を併用する事業もあるが、補助金が切れたときも自走していける仕組みを一緒に考える必要がある。	今後も各商店街等の特性を活かし、自立・自主性を高めるとともに、商店街等の活性化に繋がるためのより効果的な支援に努める必要がある。

新たな工業用地の確保

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
拡充	工業用地の確保	○宇治農業振興計画（農用地利用計画）の変更（1月） ものづくりエリア	○ものづくりエリアの一部工区（国道24号東側）について、開発事業者が開発許可・農地転用許可を受け用地造成に着手。（10月）	地域未来投資促進法や農振法、都市計画法等に基づく法定続きを進め、一部地域の造成開始に繋げることができた。	造成工事未着手の工区について、開発に向けた取組を継続する必要がある。	開発事業者や進出企業、関係機関等との連携を深め、国道24号沿道地区の産業用地開発に取り組む。
	国道24号沿道地区の企業立地に向けた土地利用転換等の取組を実施 産業立地検討エリアのうち、市道宇治槇島線沿道地区・市道宇治白川線沿道地区への産業立地の調査検討	○都市計画国道24号沿道安田町地区地区計画の決定(1月) ものづくりエリア	○他の工区についても、開発等に向けた手続きの準備を進める。			

取組の方向性 市内産業の進化・発展

取組の柱 （２）市内産業の成長支援

販路拡大の支援

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
拡充	市内事業者や市内産品の情報発信	○夏休み期間に小学生向けイベント「宇治こども夏まつり ものづくりフェス&ツアー」を開催 ・ものづくりフェス 8/5 5社、 延べ82組181人（うち子ども99人）申込 延べ57組140人（うち子ども71人）参加 ・ものづくりツアー 8/24、8/25 各日2社、延べ78組165人（うち子ども98人）申込、6組16名（うち子ども10人）参加 ○小学生向けイベント「宇治こども ものづくりフェス in アルブラ・マルシェ」を開催 ・10/21 3社 延べ44組109人（うち子ども65人）参加 ○オープンファクトリーツアーの開催【資料04】 ・3/15 4社、3/16 7社 延べ35組73人申込 延べ22組41人参加 ○企業情報誌の作成（8社を新規掲載、2月発行）【資料05】	○夏休み期間に小・中学生向けイベント「夏休み ものづくりフェス」を開催【資料06】 8/2 宇治市産業振興センター 主催 宇治市・宇治商工会議所 共催 京都信用金庫 ものづくり体験コーナー8社、宇治ベンチャー企業 育成工場見学3社、セミナー2社、京都フェニックス パークオープンファクトリー8社 延べ272組670人（うち子ども363人）申込 延べ238組578人（うち子ども305人）参加 ○小学生向けイベント「宇治こども ものづくりフェス in アルブラ・マルシェ」を開催【資料07～08】 ・4/20 4社 延べ48組72人（子ども）参加 ・10/19 5社 延べ145人（子ども）参加 ○企業情報誌の作成（7社を新規掲載、2月発行予定）	小・中学校にチラシ配布を依頼した効果が大きかった。 自由研究を行いたい子どものニーズにマッチしていた。 課題であった宇治市産業振興センターの利活用、知名度の向上にも貢献した。 京都フェニックスパークのオープンファクトリーを京都信用金庫と協力し実施し、立地企業の情報発信を行うことができた。 小・中学校にチラシ配布を依頼した効果が大きかった。 近畿圏内200社の他、R6年6月開催の日本ものづくりワールド（機械要素技術展、会場 東京ビックサイト）において来場者へ配布を行い、市内企業の情報発信を行うことができた。	申込に対して当選者が少ないため、参加したくても多くの人が参加できなかった。 参加企業が固定化しつつあり、新たな参加企業を呼び込む必要がある。 本事業で作成する企業情報誌の強みは「行政が発行」「確かな技術力を持つ企業のみが選定されている」ことである。よって市内の企業であればどの企業でも掲載をする類のものではない。	ものづくりに触れたい、触れさせたい親子のニーズは大きいため、引き続きものづくり体験イベントを実施していく。 参加企業を増やすため、企業訪問等に積極的に周知を行う。 市内優良企業については一定数の掲載が行えた。今後はこれまで掲載してきた企業の総集編を作成し、機会ごとに市内企業の情報発信手法の一つとして活用していく。
	宇治のうまいもん発信事業の実施	○YouTube「宇治飯うまいもんチャンネル」 撮影店舗 17店（延べ70店舗） 視聴回数 201,927回（延べ262,578回） ○YouTube「宇治飯うまいもんチャンネル」の認知度を高め、集客促進を図るため、Instagramを活用した二代目公式アンバサダー10人を募集 募集期間 11/1～11/30 Instagram投稿件数（店舗来店数） 133件 Instagramアカウントリーチ数 68,000人	○YouTube「宇治飯うまいもんチャンネル」 撮影店舗 30店（延べ100店舗） 視聴回数 262,505回（延べ525,083回）（11/29現在） ○YouTube「宇治飯うまいもんチャンネル」の認知度を高め、集客促進を図るため、広報活動を行う	YouTubeによる動画配信で、飲食店等の情報と魅力を効果的に発信することができた。 また、キャンペーン（イベント）の実施により、SNSによる拡散力を活用した宇治飯のさらなる認知拡大と、地域の人が地域の飲食店に訪れるという地域回遊の創出に繋げることができた。 Instagram 2,240人 YouTubeチャンネル登録物数 2,040人	まだまだ知られていない市内飲食店等の情報発信に努める必要があり、宇治飯ブランドの認知拡大が急務。併せて、多様なコンテンツとの組み合わせやイベント企画によって効果的な展開を検討する必要がある。	昔ながらの魅力ある飲食店だけでなく、最近オープンしたばかりの飲食店等の情報発信にも力を入れるべく、創業支援との連携も図る。
拡充	市内産農産物の流通促進や商談会の実施	○マッチング商談会 8/9 農業者8人、飲食店等11件 ○京都食ビジネスプラットフォームのプロデューサーと若手農家の交流会 2/22 ○「京都フードテック基本構想」に基づく南部市場オープンイノベーションラボ開設に向けたシンポジウム 2/27	○マッチング商談会【資料09】 7/29 農業者9人、飲食店等12件 ○京都フードテック構想連携促進事業費 農園見学・生産者交流会 2/25予定	生産者と実需者の新たなつながりができた。商談成立とはならない場合でも対面により貴重な意見交換が行えた。	飲食店に限らず、幅広い業種との交流の機会が必要。また、実施後の交流継続に向けた取り組みが必要である。 市内生産者の現状に沿ったフードテック関連の事業に取り組む必要がある。	アンケートや個別聞き取りにて、参加者からの声を聞き取り、より有益な交流の機会となるよう内容を検討し、実施していく。 引き続き、市内生産者がフードテック関連の事業に取組めるような機会を作っていく。

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
継続	展示会への合同出展	○R6年6月開催の日本ものづくりワールド（機械要素技術展、会場 東京ビックサイト）への出展に向けた、市内中小製造業の出展者募集、出展ブースの計画等、出展準備を実施。	○R6年6月開催の日本ものづくりワールド（機械要素技術展、会場 東京ビッグサイト）に出展。 ○R7年7月開催の未来モノづくり国際EXP02025（会場 インテックス大阪）への出展に向けた、市内中小製造業の出展者募集、出展ブースの計画等、出展準備を実施。	日本ものづくりワールド（機械要素技術展）については、来場者数が前回出展時（R4年3月）の19,875人から69,717人に大幅に増加したため、ブース来場者も増加した。	日本ものづくりワールド（機械要素技術展）ブース訪問者は前回出展時より増加したが、新型コロナの影響があり、案件を求める来場者比率が高かった前回に比べ、成約に結びつく件数・ペースがやや低くなっている。	展示会への合同出展は市内製造業の販路拡大支援に大きな役割を果たしており、さらに宇治市の産業振興のPRにもつながっているため、継続して展示会出展を行う必要がある。 R7年7月開催の未来モノづくり国際EXP02025（会場 インテックス大阪）への出展では、販路拡大のほか、万博に合わせた開催のため、市内企業の先端技術をPRする機会にしてい
	ベンチャー企業をはじめ小規模の製造業が自社の製品や技術等を広くPRし、販路拡大につなげるため、首都圏や海外で開催される展示商談会への合同出展を実施					
継続	展示会への出展補助	○制度内容を緩和し支援 企業毎の総上限額を撤廃（3年度で上限100万円なし） ○展示会出展支援助成事業助成金 申請件数35件、助成金額6,648千円 【出展展示会の例】 メカトロテックジャパン2023 ギフトショー（東京）等	○R6年度は新型コロナウイルスの影響により拡充していた制度内容を従来の制度にした。（1企業、3年度まで、合計助成額上限100万円を設定）そのため、申請企業数は減少に転じているが、新規企業や出展経験が少ない企業の申請は多く推移している。 ○展示会出展支援助成事業助成金申請20件（11/29現在13件） 【出展展示会の例】 人とするまのテクノロジー展 ギフトショー（東京）等	R5年度は新型コロナウイルスの影響緩和のため、すべての企業が利用できるようにしていた。 そのため、申請件数・助成金額ともに多く、販路拡大への支援につながった。	R6年度から、制度内容を変更したため、申請件数が大幅に減ることも考えられたが、助成件数・助成額ともに想定通り順調に推移してきている。	展示会出展の支援を行い、販路拡大につなげるにより、市内産業の底上げにつながるため、継続して実施していく。
	市内中小企業が自社の製品等を展示会等に出展する場合の経費の一部を補助					
継続	商工会議所と連携した販路拡大の促進	○商工会議所が実施する特別事業に対して市補助金を交付（商業活力再生支援事業費補助金） 上限額300万円/年 ・「FOOD STYLE Japan2023」、「FOODEX JAPAN 2024」への市内事業者出店サポート ・「京都宇治土産.com」により地域産品・地域情報を発信 ・ご当地キャラクター活動にて国内外での誘客・消費喚起・魅力を発信 ・マルシェえんにち(9/30)の実施によるPRと消費喚起	○商工会議所が実施する特別事業に対して市補助金を交付（商業活力再生支援事業費補助金） 上限額300万円/年 ・地場産品PR事業（食品展示会出展） ・インターネット通販サイトを活用した市内事業所PR ・市内消費喚起促進事業（イベント開催）等	商工会議所が行う販路開拓支援事業等に補助することにより、地場産品PRやにぎわいづくり、人材育成に寄与することができた。	より多くの人に効果的に地域産品を購入してもらえるよう、実施内容の精査・検討が必要。	商業分野における創業・企業支援や地元事業者の新商品創出促進強化、小規模事業者の経営改善等を図るため、引き続き補助金を交付する。
	商工会議所が実施する事業者の国内外への販路開拓支援や商店街等の賑わいを創出する事業等に対し補助金を交付					
継続	海外輸出の支援	○新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが、海外では対面実施する風潮ではないと判断し中止	○商工会議所が実施する特別事業に対して市補助金を交付（商業活力再生支援事業費補助金）する。 上限額300万円/年	R5年度は現地へ渡航できなかったが、「FOODEX JAPAN 2024」等において海外取引が可能な事業者とのつながりを作ることができた。	現地での実施が難しい場合、事業者ニーズも踏まえ、オンライン等を活用した海外輸出支援方法の実施・検討が必要。	引き続き補助金を交付する。
	市内事業者の海外輸出を支援					

生産性の向上や付加価値の増加に対する支援

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
新規	高収益作物への転換支援	○園芸作物用施設整備支援事業 支援件数 4件	○園芸作物用施設整備支援事業 支援件数 5件	JA事業にて賃貸借でパイプハウスを利用する農業者に対し、リース料を助成することで、農業者の負担軽減、新たなチャレンジ、営農活動を支援することができた。	必要とする支援が市内生産者に届くよう周知を強化する必要がある。	市内生産者が引き続き、安定した営農を行えるよう支援を行う。
	ハウスの設置等の高収益作物への転換を支援	○新規水源確保支援事業 支援件数 2件	○新規水源確保支援事業 支援件数 0件			
拡充	農業経営の安定化・効率化への支援	○スマート農業技術導入支援事業 支援件数 0件	○スマート農業技術導入支援事業 支援件数 3件	GPS機能付きの機械及び高精度ECセンサの導入による作業の効率化、省力化につながる支援ができた。 また農家による農産物の販路拡大に向けた活動に対して支援ができた。	必要とする支援が市内生産者に届くよう周知を強化する必要がある。	市内生産者が引き続き安定した営農を行えるよう支援を行う。
	経営の専門家活用や経営計画の策定、付加価値向上・販路拡大に資するICT活用等の新技術導入等、農業経営の安定化や効率化への支援	○農業経営レベルアップサポート事業 支援件数 0件	○農業経営レベルアップサポート事業 支援件数 0件 ○農産物販路拡大サポート事業 支援件数 1件			
拡充	設備投資への支援	○先端設備等導入支援事業 先端設備等導入支援補助金 交付決定件数 23件（設備数 37件） 補助見込額 14,356千円	○先端設備等導入支援事業 先端設備等導入支援補助金 交付決定件数 20件（設備数 30件） 補助見込額 14,000千円	先端設備等導入計画により労働生産性の向上等の要件が確認された設備投資のうち、国や京都府等が実施する補助金等を活用できない設備投資について支援を行うことができた。 また、R5年度については制度拡充を年度途中に行い、先端設備等導入計画に従業員の賃上げ方針の表明を位置付けた事業者に対しては補助上限を引き上げることで、事業者の積極的な従業員に対する賃上げに寄与することができた。	R6年度については、例年以上に申請件数が多く、早期に予算の上限に到達し、補助を受けることができない企業が多かった。	より多くの企業が補助を受けられるように検討したい。
	先端設備等の取得に要する経費とDX推進にかかる経費の一部を補助 また、生産性や生産効率の向上等、現場改善や経営力向上のための設備投資に対する低利融資の拡充					
拡充	委託研究等に対する補助	取り組み無し	取り組み無し	—	—	現在実施している産学連携交流促進事業により、産学連携を実施する事業者が活用しやすい制度となるように、企業ニーズの把握に努め、令和7年度からの新規事業を目指していたところである。しかしながら市単独での産学連携支援事業では研究委託等に発展が困難であることから、今後は京都府等と連携を図っていきたい。
	技術革新のために行う産学連携事業や大学等に研究委託等を実施する場合の経費の一部を補助					

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
継続	低利融資制度の実施	○宇治市中小企業低利融資制度（マル宇）を実施（信用保証料と利子の一部への補助も実施） 保証料補給 403件38,980千円 利子補給 998件83,852千円 ○小規模事業者経営改善資金(マル経)の利子の一部への補助 利子補給 179件8,851千円	○宇治市中小企業低利融資制度（マル宇）を実施【資料10】 （信用保証料と利子の一部への補助も実施） ○小規模事業者経営改善資金(マル経)の利子の一部への補助	市内事業者に対し、事業資金の低利融資や保証料・利子の補給などを行うことにより、中小企業経営の安定化に務めることができた。	市の財政負担を鑑み、制度の在り方については随時検討していく必要がある。	利用者・ご協力いただく金融機関の意見も踏まえて制度の検証を行い、今後も健全な事業資金供給を行うため、効果的な融資及び補給などの支援に努める。
	市内事業者の経営の安定を図るため、事業資金として低利・無担保での融資を実施、あわせて保証料や利子の一部を補給					
継続	先端設備導入に係る償却資産税の減免	○先端設備導入計画の認定件数 34件（新規31件、変更3件） R5年度の税制改正によりR5年4月1日以降に初めて先端設備等導入計画の認定申請を行う場合は、全て新規申請	○先端設備導入計画の認定件数 27件（新規21件、変更6件）	先端設備等導入計画の認定を受けた設備に対する補助金の実施により、制度周知を行うことができた。	事業者が認定申請を行う際に必要となる添付書類を作成する「認定経営等革新支援機関」に対して国が行うべき周知が不足している（本制度の制度設計は国が実施）。	本制度はR6年度末までの制度となっているため、R7年度以降については国の動向に注視していく。
	先端設備等導入計画を策定する企業に対して、導入予定の設備等にかかる固定資産税を最大3年間免除					
継続	資格取得に対する補助	○補助金助成件数1件 ○補助金助成金額14千円	○補助金助成件数4件 ○補助金助成金額63千円(11月29日現在)	コロナの影響により、R2年度まで免許・資格取得の研修会中止等の影響で交付申請がなかったが、R3年度から申請件数が回復している。	申請件数は概ねコロナ影響前程度に回復してきている。R5年度は申請件数5件に対して合格件数1件と、合格者数が少なく、実績は低くなったものの、企業の人材育成に寄与するため、継続した実施が必要である。	引き続き人材育成支援施策として、補助を継続していく。
	従業員のスキルアップ（資格・免許等の取得や研修会等の受講）に要する経費等の一部を補助					

円滑な事業承継の支援

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
拡充	経営者やアトツギのコミュニティ形成の支援	○京都信用保証協会とアトツギ（事業承継）に関するプログラムを開催 ・アトツギらば LEADERS CAMP 全5回 9/21、10/6、10/18、11/8、12/2 16人 ○宇治市内企業後継者育成セミナー ・セミナー＆交流会 全6回 7/6 7人、8/3 6人、9/26 7人、11/28 5人、2/7 4人、3/13 5人	○後継者向け伴走支援プログラム「アトツギらば」【資料11】 ・ワークショップ 全6回 9/13 11人、9/17 11人、10/3 10人、10/25 10人、11/14 9人、12/5 11人 ・オンラインレビュー 全4回 9/24 7人、10/15 4人、11/5 5人、11/26 7人 ・1on1メンタリング 第1回11人 第2回11人 ・プレゼン練習会 11/28 2人、12/3 5人 プログラム参加者 12人 ○宇治市内企業後継者育成セミナー ・セミナー＆交流会 全4回 10/3 5人、11/28 6人、1・2月（予定）	アトツギらば（小規模で継続的な交流セミナー）については、参加者による学びの創出とアトツギコミュニティの拡大ができた。 また、プログラムの参加を通じて家業を引き継ぐことを決心したアトツギまで現れ、アトツギの前向きな行動変容も起きており、今後も各機関と連携しながら事業の発信に務め、新たなアトツギの掘り起こしを図っていく。 宇治市内企業後継者育成セミナーの目的の一つとして後継者同士の交流を深め、お互いに相談、研鑽できる関係を築き、新たな経営者間のネットワークの構築を掲げているが、着実に交流が深まっている。	引き続き地域に潜んでいるアトツギの掘り起こし強化を行う必要がある。 また、今後中長期的に後継者支援を行うため、域内のアトツギ支援エコシステム構築に向けた支援機関の連携が欠かせない。 新たな経営者間のネットワーク作りについては順調に育まれている一方で、セミナーのアウトプット（先輩社長の経験談や成功体験を踏まえて、どのような新たな取組を実施したか 等）の意識づけが不十分である。	引き続き、挑戦意欲のある後継者、後継者候補の挑戦と成長を後押ししていく。 併せて、後継者不在先の支援も検討する必要があり、地域のニーズや状況を調査し、第三者承継等の可能性も探っていきたい。
	市内事業者の大きな課題となっている事業承継をテーマとしたセミナー及び交流会等の開催 これから後を継ぐ人、後を継いで間もない社長、ものづくり企業後継ぎ社長等のアトツギを繋ぐネットワーク化の推進					
拡充	担い手への農地集積を支援	○農地中間管理事業 貸借 7件 1.52ha	○農地中間管理事業 貸借 1件 0.14ha 売買 3件 0.74ha	農地の借受希望及び貸付希望の公募を支援し、マッチングを行った。農地を担い手へ集積し、耕作放棄地化の解消・防止とともに担い手の農業経営基盤を強化した。	制度のさらなる周知を行うなど、貸付希望案件の掘り起こしが必要である。	R7より地域計画に基づく農地の貸借に制度が大きく変わる予定である。滞りなく運用できるよう準備を行い、実施していきたい。
	農業を担う次世代へ農地集積を促進し、面積規模拡大と、合わせて市内農業者への集積を加速させるよう支援					

取組の方向性 市内産業の進化・発展

取組の柱 (3) 人材不足への対応

雇用の確保

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
拡充	WEBを活用した雇用・就労支援	○人材確保を目的とした企業紹介動画コンテンツの制作（宇治市内企業PR動画作成事業）【資料12】制作対象企業数 12社	○人材確保を目的とした企業紹介動画コンテンツの制作（宇治市内企業PR動画作成事業）制作対象企業数 6社【資料13】 ○PR動画活用セミナー開催参加者数 3社	PR動画の必要性（近年の就活動向の把握）や活用方法を事例と有効的な人材確保への活用方法についてのセミナーからPR動画制作への申込につなげることができた。	想定していたより制作を希望する事業者が少ない。過去に合同企業説明会へ参加した企業等へ聞き取りを実施した結果、「既に自社のPR動画を所有している」または「負担金（1社あたり20,000円）が無ければ作成したい」との声が多かった。	R6については当初製造業者のみを対象に募集を行い、途中から全業種に対象を広げた。R7については当初から全業種を対象とし事業周知期間及び募集期間を十分に確保したい。一定、動画制作について希望する事業者への支援はできたと考えており、R8以降についてはWEBを活用した雇用・就労支援として新たな事業内容を検討したい。
	求職者に向けたプロモーション動画を市内事業者が作成する支援を実施					
拡充	産学交流の推進	○京都大学宇治キャンパス産学交流会の案内を宇治NEXTメルマガで配信 ・第46回 市内事業者から9人参加 ・第47回 市内事業者から1人参加 ・第48回 市内事業者から2人参加 ・第49回 市内事業者から9人参加 ○京都先端科学大学 キャップストーンコンソーシアムへの参画 ○京都工芸繊維大学 プロダクトデザインセミナー ・第1回 2/6 内容 デザイン思考を用いた新商品・新製品の開発をテーマとした講義 参加 9人 ・第2回 2/13 内容 デザイン思考を学ぶブレインストーミングとビジュアルコラージュ作成 参加 10人	○京都大学宇治キャンパス産学交流会の案内を宇治NEXTメルマガで配信 ・第50回 市内事業者から10人参加 ・第51回 市内事業者から16人参加 ・第52回 市内事業者から17人参加 ・第53回 市内事業者から17人参加 ○京都先端科学大学 キャップストーンコンソーシアムへの参画 ○夏休み期間に小中学生向けイベント「夏休み ものづくりフェス」内でセミナーを開催 ・レジンを使ったオリジナルチャームづくり 内 容 光の化学を楽しく学んで、光の力で固まるレジンを使ってオリジナルのチャームづくりを体験 連携先 互応化学工業(株) 参 加 45人（うち小中学生23人） ・ロボットカーでプログラミング体験 内 容 パソコンでプログラミングを行い、ロボットカーを動かす 連携先 テラユナイテッド(株) 参 加 20人（うち小中学生10人） ・だれでも絵がうまくなる、デザイナーが教える絵のかき方 内 容 プロのデザイナーの秘密の方法で、絵をかく練習 連携先 京都工芸繊維大学 参 加 35人（うち小中学生17人）	R4の京都先端科学大学との連携事業により、R5はキャップストーンプログラムとして市内事業者が課題提供を行った。 R5及びR6は産学連携の色を薄めてセミナー開催を実施したところ参加者にとって関心ある事業が実施できた。	市内事業者の規模では開発に長期の期間や費用を投じることが現実的ではなく、大手企業が実施しているような産学連携は困難である。その中で、大学との連携や研究室、学生との関わりが生まれる事業を実施していく必要がある。 また、小中学生向けイベントについては企業や大学と共に事業を実施しているが、中長期的に産学連携につながるような展開が必要である。	市として事業者から産学連携支援としてどのような支援が求められるかを今一度把握に努め、また、京都府等との連携も図る必要がある。 小中学生向けに実施した企業によるセミナーや工場見学を高校生・大学生及び大学関係者向けにも実施できないか検討していく。
	京都大学宇治キャンパス産学交流会への市内事業者の参加促進とともに、理系大学研究室との交流セミナーを実施し、近畿圏内の理系大学を中心とした産学交流を推進					
拡充	市内事業者や市内産品の情報発信【再掲】			【P.04（2）に掲載】		
	市内製造業や伝統産業をPRするためのオープンファクトリー（工場や工房見学）の開催（一般向け、親子・学生向け）や、市内事業者や市内産品等の情報を情報誌やウェブサイトに掲載 市内事業者・起業家・商店街等を登録した「市内事業者バンク」を創設し、学校でのキャリア教育や地域でのノウハウの提供等、地域と事業者を繋ぐ取り組みを推進					

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
継続	会社説明会の開催	○会社説明会を概ね四半期ごとに開催 6/21 参加事業者7社 8社予定だったが台風で1社辞退 求職者34人 9/21（パート）参加事業者5社、求職者13人 11/21（就職氷河期世代支援）参加事業者3社、求職者15人 2/27（マザーズ）参加事業者4社、求職者8人（ ）内はテーマ	○会社説明会を概ね四半期ごとに開催【資料14～15】 6/27 参加事業者11社、求職者23人 9/27 参加事業者11社、求職者28人 11/21 参加事業者7社、求職者20人程度を想定 2/7 参加事業者5社程度、求職者20人程度（予定）	毎回、一部参加者は複数の企業の説明を受け、R5は4回中3回の説明会で採用者が出るなど、一定求職者及び企業のニーズに応えることができています。 就職氷河期世代支援をテーマにした回では採用率が高く、テーマ開催の効果も確認できた。 R6は11月開催分までで、16社中7社が初参加（R5は12社中2社）。	テーマを設けての開催にあたっては、参加企業が限られてくるというデメリットがある。 求職者に対する周知方法が課題である。	R6年度はテーマを設けず開催し、企業数、求職者数とも昨年水準を上回っているものの、適正なテーマ設定を行うことは今後も検証したい。 また、求職者への周知にあたってはジョブパークなど各支援機関、施設などターゲットへの訴求が期待できる団体との連携など引き続き検討する。
	市内事業者の人材確保等を目的に、ハローワーク、宇治商工会議所、京都ジョブパークと連携した会社説明会を開催					
継続	合同企業説明会の開催	○製造業の合同企業説明会を開催【資料16】 3/7（木） 開催場所 京都産業会館（京都経済センター内） 出展社数 20社 来場者数 14人 内定者数 0人	○製造業の合同企業説明会を開催【資料17】 11/2（土） 開催場所 京都産業会館（京都経済センター内） 出展社数 19社 来場者数 20人 内定者数 1人（11/20現在）	R5実施の結果を踏まえ、R6は開催時期の変更を行った。その結果としてR5の来場者数14人からR6は20人へと増加した。 なお、既にR6開催を通じて採用につながっている。	Z世代における就職活動手法の変化や大手企業の人材確保の早期化・囲い込み、売り手市場の加速化（国内における全体的な人手不足と少子化）等が要因で宇治市主催以外の対面式合同企業説明会は参加者減少が進んでいる。	来場者数の増加及び採用件数の増加を図るため、R7も引き続き秋に開催を行いたい。
	市内製造業の人材確保を支援するため、合同企業説明会等を開催					

人材不足を補う取組への支援

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
拡充	設備投資への支援【再掲】			【P.06（2） に掲載】		
	先端設備等の取得に要する経費とDX推進にかかる経費の一部を補助 また、生産性や生産効率の向上等、現場改善や経営力向上のための設備投資に対する低利融資の拡充					

取組の方向性 交流・連携の強化

取組の柱 （４）企業間や産学交流の推進

異業種交流等の促進

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
新規	市内ものづくり企業の交流促進	○宇治市内企業後継者育成セミナー 【P.07「経営者やアトツギのコミュニティ形成の支援」に掲載】				
	商工会議所工業部会の交流会やVIF入居企業による事業報告会等による企業や事業者間の交流を促進					
拡充	異業種交流会の開催	○交流セミナー開催【資料18】 ・Open Talking スナックby TIP*S 5/26 9人 ・新規事業ボードゲーム 6/16 5人 ・うじ創業セミナー 全8回 30人 ・ビジネス思考のキホンのキ 11/10、11/24 10人 ・自分ブランド塾 1/26 20人 等 ○交流会開催【資料19】 ・地域クラウド交流会 7/14 169人 ・うじらば大学デザインゼミ 全4回 17人 ○起業家支援プログラム 3/2 41人	○交流セミナー開催【資料20～25】 ・30秒の伝え方講座 6/28 21人 ・TIP*S 7/31 21人 ・伝わるスライドデザイン講座 8/6 16人 ・マーケティング戦略のキホンのキ 9/19 23人 ・うじ創業セミナー 全6回 23人 ・WEBプロモーションセミナー 全4回 13人 ・うじらば異業種交流会 5/24、7/26、9/20 80人 ・ゼロから学ぶ起業入門講座 12/17予定 ・CANVA講座 全3回 予定 等 ○交流会開催【資料26】 ・スタプロ 5/18、6/22、7/27、8/24 75人 ○スタートアップ企業創出講座 ・オンライン創業支援ワークショップ トライアル 予定 2/4、2/10、2/25、3/4、3/18	事業者間の取引拡大等を目的としたセミナー及び交流会などの実施により、参加者同士で積極的にコミュニケーションを図り、事業のマッチング及び取引が成立するなど交流連携が強化された。 その他、創業フェーズ毎の支援策も打ち出し、フェーズ毎のコミュニティが形成されるなど、創業を目指す人の挑戦を後押しすることができた。	コミュニティマネージャーの配置等により、うじらばコワーキングスペースにおける人的な情報の共有化および適切なマッチングをさらに図る必要がある。 時代のニーズに合わせた多様な起業家を輩出するための伴走支援策を強化する必要がある。	事業連携及び新たな価値の創出に向けて、今後も引き続き効果の検証をしつつ、うじらばをHUBにした各種交流イベント等を継続して実施していく。 創業の「入口」と「出口」の支援を強化し、社会的・経済的インパクトの創出に挑戦する地域起業家の輩出を狙っていきたい。
拡充	産学交流の推進【再掲】	【P.08（３） に掲載】				
	京都大学宇治キャンパス産学交流会への市内事業者の参加促進とともに、理系大学研究室との交流セミナーを実施し、近畿圏内の理系大学を中心とした産学交流を推進					
拡充	農商工が連携した商品開発や新ビジネスの支援	【P.04（２） 「市内産農産物の流通促進や商談会の実施」に掲載】				
	農商工連携での新たな商品の開発や新たな生産手法により、農業生産額を向上させるため、生産者と加工・販売事業者等のマッチング等を実施					

取組の方向性 交流・連携の強化

取組の柱 (5) 市内産業の情報発信

魅力的な市内事業者情報の発信

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
拡充	市内事業者や市内産品の情報発信【再掲】	【P.04（ 2 ） に掲載】				
	市内製造業や伝統産業をPRするためのオープンファクトリー（工場や工房見学）の開催（一般向け、親子・学生向け）や、市内事業者や市内産品等の情報を情報誌やウェブサイトに掲載 市内事業者・起業家・商店街等を登録した「市内事業者バンク」を創設し、学校でのキャリア教育や地域でのノウハウの提供等、地域と企業を繋ぐ取り組みを推進					
拡充	宇治のうまいもん発信事業の実施【再掲】	【P.04（ 2 ） に掲載】				
	市内事業者の応援と街の活性化を図るため、飲食店の「美味しい」料理や製造等の熟練した「上手い」技術等を撮影し、動画で発信					
継続	技能功労者の表彰	○表彰式の開催 表彰式 11/23 表彰者数 5職種5人	○表彰式の開催 表彰式 11/23 表彰者数 5職種6人	技能者の功労を顕彰することで技能尊重の気運を高めることができた。	候補者が減少している。	技能水準の一層の向上及び技能尊重の気運を高めるため、引き続き実施する。
	技能水準の一層の向上と技能尊重の気運を高めることを目的に、永く同一の職業に従事し、優れた技能を持つ人を表彰					

宇治ブランドの向上

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
拡充	観光施策の実施	○京の七夕 in Ujiの実施 （実施主体 「京の七夕 in Uji」実行委員会） 参加者数 40,098人 京都ならではの現代版・七夕まつりとして実施されている「京の七夕」を宇治オリジナルの演出を加え実施。 ・8/4～8/11 宇治公園他 ライトアップ ・8/4～6・10・11 願いがかなう道	○京の七夕 in Ujiの実施 （実施主体 「京の七夕 in Uji」実行委員会） 参加者数 25,000人 京都ならではの現代版・七夕まつりとして実施されている「京の七夕」を宇治オリジナルの演出を加え実施。（8/2～8/4）	夜市の出展者数がR5の3店舗からR6は9店舗に増加した。	事業実施に向けた財源の確保。より多くの方に来てもらうため、より効果的な広報が必要である。	引き続き、宇治らしさを活かす夜のにぎわいづくりを推進する。
	観光振興計画に基づき、豊富な観光資源を生かした、ワンランク上の観光事業に取り組む。また、宇治独自のブランド力を活用した新たな観光事業に取り組むとともに、自然や景観を活かした新たな観光資源の開発に向けた検討を実施	○放ち鶴飼＆宇治の魅力体験ツアー （実施主体 公益社団法人 宇治市観光協会） 日本で初めて人工ふ化に成功したウミウの「ウッティー」たちが行う、綱を使用せず鶴匠の呼びかけで戻ってくる「放ち鶴飼」と宇治の魅力を体感するツアーを実施 6月 69人（4回） 10月 16人（1回） 11月 44人（4回） ○第25回全国鶴飼サミット宇治大会の開催 （実施主体 第25回全国鶴飼サミット宇治大会実行委員会） 21年ぶりに宇治市で開催。 10/19・20 宇治市文センターにて式典、講演会を実施し、一般参加者も含め約200人が参加。	○鶴匠講演と「放ち鶴飼」見学 （実施主体 公益社団法人 宇治市観光協会） 日本で初めて人工ふ化に成功したウミウの「ウッティー」たちが行う、綱を使用せず鶴匠の呼びかけで戻ってくる「放ち鶴飼」の見学と鶴匠の講演を実施。 6月 133人（9回） 10月 64人（2回） 11月 42人（3回）	日本で唯一の「放ち鶴飼」とともに鶴匠の講演を楽しんでもらえた。	参加者への付加価値化やニーズ把握により、効果的な広報宣伝について検討する必要がある。	現在は宇治市でしか行われていない「放ち鶴飼」を伝承・推進するとともに、効果的な情報発信を行う。

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
拡充	魅力発信事業の実施	○ツーリズムEXP0ジャパンへの参加 お茶の京都DMOとして、ツーリズムEXP0ジャパンに参加し、10/26・27は観光事業者との商談を実施。10/28は一般客に向けてのPRを実施。	○ツーリズムEXP0ジャパンへの参加 お茶の京都DMOとして、ツーリズムEXP0ジャパンに参加し、9/26・27は観光事業者との商談を実施。9/28・29は一般客に向けてのPRを実施。	商談では宇治市の最新情報を中心に各旅行会社が求める旅行形態に応じた宇治の魅力あるコンテンツを紹介した。	商談中に旅行商品造成の具体的な話になることが多く、出展者として参加する人の検討が必要である。	今後も旅行会社との情報交換を行っていく。
	市民、事業者、関係団体、インフルエンサー等の多様な主体と協働し、宇治市の様々な魅力を発信	○宇治市観光大使等によるPR 宇治市観光大使を活用し宇治市でのライブやイベントなどを通じ情報発信を実施。	○宇治市観光大使等によるPR 宇治市観光大使を活用し、宇治市でのライブやイベントなどを通じ情報発信を実施。	イベント等で宇治市に来訪された際にSNS等で発信した。	観光大使との情報交換や共有を密に行い、大使を活用した情報発信を促進する必要がある。	引き続き観光大使との連携を行い、宇治の魅力をあらゆる角度から発信してもらう。
拡充		○親子で宇治文化の魅力発見 ・夏休み企画 36人参加 ・秋企画 51人参加 ・冬企画 56人参加	○親子で宇治文化の魅力発見 ・秋企画 天ヶ瀬ダムツアー 32人参加 ・冬企画 検討中	親子で楽しめる宇治の伝統、文化を活かした体験型のモニターツアーを実施し、多くの人が参加した。	開催日によって参加人数に偏りがあったため、参加者の声をもとに構成する必要がある。また、参加者によるSNS発信件数が少なく、情報の発信方法を再検討する必要がある。	親子で宇治文化を学べるような様々な取組を発信する。
		○光る君へ 宇治 大河ドラマ展 ～都のたつみ 道長が築いたまち～ 3/11～1/13に、お茶と宇治のまち歴史公園 交流館 茶づなにおいて実施。	○光る君へ 宇治 大河ドラマ展 ～都のたつみ 道長が築いたまち～ 3/11～1/13に、お茶と宇治のまち歴史公園 交流館 茶づなにおいて実施。 6/1～6/20、9/29～10/14は市民無料デーを実施。 8/5～8/25は宇治市在住の小中学生無料招待	大河ドラマをきっかけに宇治に沢山の人が訪問した。また、宇治の歴史文化を紹介する展示を行うことで、宇治へさらに興味をもってもらい、市内の周遊に繋げることができた。	入場者数の増加に取組む必要がある。	紫式部ゆかりのまちとして引き続き各地でのPRを実施することで、市内だけでなく市外からの多くの観光客を誘客することを目指す。 大河ドラマ展はR7.1.13まで
拡充		○小倉から広がるにぎわい創出 市内の周遊観光を活性化させるため、小倉地域と中宇治地域をつなぐ取組を実施。 ・バスのラッピング広告 ・観光ガイドの作成	○小倉から広がるにぎわい創出 市内の周遊観光を活性化させるため、小倉地域と中宇治地域をつなぐ取組を実施。 ・バスのラッピング広告 ・ラッピングバス利用促進のため、謎解きゲームを実施 ・小倉地域を紹介する観光ガイドの作成 ・京都宇治観光マップのリニューアル	ラッピングバスの運行や小倉地域の観光ガイドを作成することで、中宇治地域と小倉地域の周遊を促進できた。	小倉地域の認知度向上のため、継続して小倉地域の情報発信を行う必要がある。また、ラッピングバスの利用者増加についての取組みを進める必要がある。	引き続き、小倉地域と中宇治地域をつなぐ取組を実施することで、効果を市内広域的に波及させていく。
		○ファムトリップの実施 京都翔英高校の学生が留学生を案内するファムトリップを実施。学生11人、留学生12人参加。	○むらさきみどりいとおいし 食のいろうりコンテスト in 宇治 宇治のイメージと結びつく「緑色（宇治茶）」と「紫色（紫式部）」の2色を用いたメニュー等を市内事業者・市民から募集。 ・表彰イベント「食のいろうりフェスタ」を開催 ・10/1～11/30の2ヶ月間、参加事業者の応募作品をそれぞれの店舗で提供 ・ハッシュタグキャンペーンを実施	71事業者、112件の市民からの応募があった。また、店舗でのメニュー提供や表彰イベントを通して、宇治のイメージ「紫」「緑」のPRができた。	コンテスト参加への呼びかけに苦戦したため、自発的に参加してもらえよう工夫が必要。ハッシュタグキャンペーンの参加も低調だったため、代替案の検討が必要。	事業者とのつながりができたため、今後も事業者と一緒に盛り上げる取組を行う。
拡充		○市民参加型写真展の開催 京都文教大学・短期大学と連携して、市民参加型の写真応募イベント「宇治ふぉと！～君の光（ピカ）イチものがたり～」を共催。 ・開催にあたりママさんフォトグラファーによるスマホ写真教室を開催（11/18 4組、12/13 8組参加） ・応募写真を宇治橋通り商店街内の協力店舗、また集会所に一括展示（2/3～2/24）				

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
拡充	各種PR事業の実施	○山城マルシェ ・6/13、7/11、10/10、11/14、12/12、1/16（6回開催） ○農業情報発信事業 宇治あぐりPR委員会 （出展イベント名 出展団体数） ・お花見市場一般開放 1 ・植物公園緑のウォークラリー 1 ・「やましろの恵」試食会 1 ・親子で体験 種まき・収穫 1 ・アクトバル秋まつり 6 ・秋の市場一般開放 1 ・植物公園ハロウィンパーティ 1 ・六徳健康フェスタ 2 ・植物公園紅葉フェスタ 1 ・JAまつり 3 ・近畿歴史まちづくりサミット 1 ・うーちゃフェスタ 1 ・南部市場春の一般開放 1	○山城マルシェ ・6/11、7/9、10/8、11/16、12/10、1/14、2/18（7回開催） ○農業情報発信事業 宇治あぐりPR委員会 （出展イベント名 出展団体数） ・植物公園緑のウォークラリー 1 ・八十八夜茶摘みのつどい 1 ・植物公園鉄道イベント 1 ・JA京都やましろ宇治市支店杯バレーボール大会 1 ・名古屋観光プロモーション 1 引き続き他団体が主催するイベントに出店予定	市内産農産物を周知し、消費や販路拡大を促進するため、イベント出展や直売の機会創出などを行った。	参加団体が固定化されている。幅広く参加してもらえるよう日程・時期等に工夫が必要。	引き続き、市内農産物がPRできるよう取組むとともに、消費者自らが農業を体験することにより、農への理解を深める取組み等を実施していく。
拡充	市内産宇治茶ブランドの向上に向けた施策の実施	○高品質茶ブランド力強化事業（48件5,285千円） 高品質茶推進事業 45件6,833千円 優良茶園振興事業 3件1,038千円 宇治茶海外輸出支援事業 0件0円 ○各種茶品評会 第75回関西茶品評会 大臣賞、産地賞受賞 第77回全国茶品評会 大臣賞、産地賞受賞 ○イベント出展 7/1・2 京都大作戦 8/19 サンガホームタウンデー 8/25 全品産地賞受賞報告会 9/8 文化庁移転記念イベント 11/12 ごちそうフェスタ 12/2 歴まちサミット 12/17 うー茶フェスタ	○高品質茶ブランド力強化事業（67件12,143千円） 高品質茶推進事業 86件10,910千円 優良茶園振興事業 8件1,178千円 宇治茶海外輸出支援事業 2件55千円 ○各種茶品評会賞 第78回全国茶品評会 大臣賞、産地賞受賞 ○イベント出展 5/9 文化庁視察 5/22 石山寺観光プロモーション 6/15・22 京阪あじさい号 6/20 嵐山観光プロモーション 7/6・7 京都大作戦 9/4 名古屋観光プロモーション 9/21 嵐山「光る君へ」ラッピング電車お披露目 9/22 サンガホームタウンデー 10/12 万博開催半年前機運醸成イベント「京都イロドリEXPOこといろ」 10/24 南座観光プロモーション 11/2 全国お茶まつり 11/10 ごちそうフェスタ 11/16・23 京阪もみじ号 11/22 南座観光プロモーション 11/28 閑空観光プロモーション 12/22 うー茶フェスタ	高品質茶ブランド力強化事業を実施することにより、各種茶品評会で大臣賞及び産地賞を受賞することができた。 宇治市内にとどまらず、府外のイベントに出展することにより、広く宇治市内産宇治茶のPRができた。	府外イベントの回数が少ないため、強化していく必要がある。	高品質茶ブランド力強化事業は高品質な茶生産につながっていると考えられるため、今後も引き続き実施していく。 市外へ効果的な情報発信を行うため、出展先を検討していく。

商店街の活性化支援

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
継続	商店街等の消費拡大に向けた取組【再掲】	【P.03（１）に掲載】				
	商店街等が実施するキャッシュレス化等に向けた取組への支援					
継続	商店街等への補助【再掲】	【P.03（１）に掲載】				
	商店街等が実施するイベントや商店街施設（防犯カメラ等）の設置、情報発信事業等、商店街の効果的な活性化につながる取り組みに対し補助金を交付					

取組の方向性 新たな産業の創出

取組の柱 （ 6 ） 事業の担い手の確保

起業支援

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
拡充	起業ニーズの掘り起し	【P.10（４） 「異業種交流会の開催」に掲載】				
	市内における起業家の掘り起しを目的とした、起業を選択してもらうための創業塾の開催や、起業家に情報交換の場や、起業家同士の出会いの場を提供するための交流会を他の支援機関と連携しながら開催					
拡充	産業交流拠点「うじらば」を活用した交流機会の創出	【P.10（４） 「異業種交流会の開催」に掲載】				
	時代のニーズに合わせた起業家の輩出やオープンイノベーションを促進するため、産業会館１階に産業交流拠点「うじらば」を設置。宇治NEXT（市・商工会議所）が運営し、異業種交流会等、あらゆる層が交流できる機会を創出することにより、新しい価値を生み出し、事業者の成長支援を実施					
拡充	こども未来キャンパスの実施	○小・中学生向け（保護者観覧可） 体験会・説明会（全3日、87人参加(申込者212人)） 本スクール全22回(6/17開講、32人参加) オンラインスクール(6～8月)6回(283人参加) （1～3月)6回(280人参加) ○高校・大学生向け 体験会・説明会（全3回、オンライン、当日参加33人・アーカイブ視聴2人） 本スクール全9回(6/10開講、23人参加)	○小・中学生向け（保護者観覧可）【資料27～28】 体験会・説明会（全3日、81人参加(申込者225人)） 本スクール全22回(6/15開講、32人参加) 最終発表会 3/22 オンラインスクール(6～8月)6回(288人参加) （1～3月)6回予定 ○高校・大学生向け【資料29】 体験会・説明会（全2回、オンライン及びフィールドワーク、4人参加） 本スクール全11回(6/5開講、15人参加) 最終発表会 9/14 コミュニティ施策全3回（10/2、10/31、11/21）	社会の仕組みを楽しみながら学べるプログラムであり、子ども、保護者にとっても満足度の高い取組を実施できた。R6においても定員を大幅に超える申込みとなっており、関心度の高さが窺える。 R5、6年度はグループでプロジェクトを立案し検証まで実施した。R6は課題の深堀を目的としてR5より本スクールの回数を増やしたことで、各プロジェクトの具体化が図れ、最終発表会にて審査員から高い評価を得ることができた。	定員を超える申し込みがあり、本スクールに参加し辛い状況があり、オンラインスクールでのカバーを実施しているが、引き続き課題である。 R6は課題の深堀をした分、最終発表会までにアクションに到達しないグループがあった。 参加学生には、より宇治の地域に根ざした課題解決に取り組んでもらえるよう、カリキュラムの改善を引き続き検討していく。	課題を解決するため、内容の充実もしくは改変などにより、より効果の高い取組としていく。 また効果測定の面においても、宇治への定着意向、創業への興味度等の基準を設けながら、手法の検討をしていく。
	産業交流拠点「うじらば」にて、未来の人材育成やふるさとへの愛着の醸成に向けた子ども向けの起業スクールや体験スクールを実施。参加者の声を踏まえながら事業内容の充実を図る					

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
継続	新規起業家への開業資金の補助	○ 創業支援補助金の申請を募集（6/23～10/31） （申請件数16件、採択件数10件） 創業相談49件	○ 創業支援補助金の申請を募集（6/5～10/31） 【資料30】 （申請件数10～20件程度を想定） 創業相談38件（10/18現在）	「宇治市産業戦略」の中で目標としている補助金を活用した創業を6件以上支援することができた。 また空き家活用、移住などの加算要件が申請のインセンティブになるとともに、地域課題の解決にも貢献している。	例年、予算を上回る申請があり、不採択者も一定数発生している。不採択者との関係継続が課題。 また、R5は申請額に対し、決算額が減少することによる予算の余りが発生しており、申請時の額の精査は引き続きアナウンスしていく。 R6の申請者平均は40代半ばであり、若者開業率が低い。金融機関等との連携もより必要となってくる。	補助金は継続実施。創業しやすいまちであることをよりPRしていく。
	起業初期の経営安定化を目的に、新たに起業する人や第二創業を行う人に対して、その経費の一部を補助					
継続	専門機関による市内事業者の相談支援の実施	○ ベンチャー企業育成工場の入居者に伴走支援を実施（支援内容の例 人材確保、資金調達、企業間マッチング、販路開拓等） ○ 入居企業数 8社	○ ベンチャー企業育成工場の入居者に伴走支援を実施（支援内容の例 人材確保、資金調達、企業間マッチング、販路開拓等） ○ 入居企業数 7社（12/4現在）	ベンチャー企業育成工場の入居者に伴走支援を実施（支援内容の例 人材確保、資金調達、企業間マッチング、販路開拓等）。 工場が併設されているインキュベーション施設はめずらしく、また賃料が安価であることから入居希望される問い合わせは多い。	入居期間終了後の市内定着が課題。 市内において新規立地先が少ないこと、賃貸においては市内物件の賃料が高いことが市外流出の原因となっている。	入居期間終了後、市内物件を紹介できるよう情報収集に努める。
	インキュベーションマネージャーを配置し、宇治ベンチャー企業育成工場の入居企業等の経営支援を実施					
継続	ベンチャー企業育成工場の運営					
	市内におけるベンチャー企業育成を目的とした、宇治ベンチャー企業育成工場を運営					
継続	京都府融資制度を活用した起業への支援	○ 保証料補給（一部）を実施 18件976千円	○ 保証料補給（一部）を実施	市内事業者に対し、保証料補給を行うことにより、中小企業経営の安定化に努めることができた。	市の財政負担を鑑み、今後の制度運用の方向性については随時検討が必要。	今後も健全な事業資金供給を行うため、効果的な補給などの支援に努める。
	創業支援の一環として、京都府制度である「開業・経営承継支援資金」への保証料補給（一部）を実施					

新たな担い手の確保

区分	事業内容	R5実績	R6見込	R5～6に実施した事業についての検証（成果）	R5～6に実施した事業についての検証（課題）	今後の方向性
拡充	新規就農者への支援	○ 新規就農者3人に対し、農業次世代人材投資資金（経営開始型）を、新規就農者1人に対し、経営開始資金を交付。 新規就農者1人に対し、経営発展支援事業補助金を交付。	○ 新規就農者3人に対し、農業次世代人材投資資金（経営開始型）を交付。	新規就農者に対し資金を交付することにより、農業の持続と振興を図ることができた。	農業者の高齢化に対応する取組が必要であるため、今後も国・府の動向を注視し、引き続き就農意欲の喚起と就農後の定着を図る必要がある。	農業を持続させるため、新規就農者を確保する必要があるため、経営確立に資する資金の交付等を引き続き行う。
	経営が不安定な就農直後の所得確保や、農業者からの指導による技術向上等により、新規就農者の定着を支援					
継続	企業誘致の検討及び誘致活動	○ 第26回 関西ものづくりワールド 2023出展（京都市府市町村企業誘致推進連絡会議事業） 10/4～10/6 全体来場者数 31,627人 連絡先交換企業数 約175社	○ 金融機関・ゼネコン等に向け企業誘致説明会への参加（京都市府市町村企業誘致推進連絡会議事業） 開催日時未定	展示会への出展により、宇治市の産業振興施策や立地の利点をPRすることができた。	産業支援施策や製造業の集積、交通網の利便性のPRはできたものの、具体的な用地情報の提供ができない状況にある。	宇治市への企業誘致のPRは長期的に続ける必要があり、引き続き展示会出展等、様々な機会を通じて行っていく。
	宇治市の特徴や経済構造の変化、企業側のニーズ等を踏まえた上で、研究開発型の企業や大学発のベンチャー企業等、誘致対象を検討するとともに、市外からの誘致に向けた情報発信や企業訪問を実施					